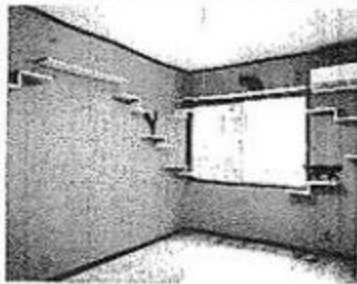


自社所有物件を猫共生型に改修 成功事例をつくり家主への提案促進狙う

松井産業

不動産業を手掛ける松井産業（埼玉県三郷市）



▶どんな色の猫でも映えるようにとオレンジのクロスを採用している

が自社所有で猫飼育専用の共生型のリノベーション賃貸住宅『ソシアルハイツ103号室』を完成させ、3日から入居者募集を開始した。猫共生型賃貸住宅のプランニングを手掛けるクラシラ（東京都葛飾区）が監修している。

同物件はJR武蔵野線「吉川」駅徒歩4分の場所に立つ17㎡の1DKだ。居室内はどんな色の猫で

も映えるようにオレンジ色の壁紙を選択し爪とぎに対応した強度の高いものを張っている。キャットウォークやキャットストップは多頭飼いを意識して昇降経路を複数用意した。

松井産業はペット禁止の賃貸で隠れて猫を飼われた事例が他社であることなどで、猫が飼える賃貸住宅の需要を見越してリノベーションに踏み切

った。同社の大山雅史氏は「今後の反響をつくり、空室に悩む家主に対し成功事例として提案していきたい」と話す。

今後、同物件内の26㎡の1DKも猫共生仕様へ改修する。「猫と一緒に暮らす賃貸住宅」の企画・設計も家主向けに提案していく予定だ。参考として、電気配管工事やキッチン、ユニットバスなどの交換、クリーニングなどを除いて17㎡1DKが約50万円、26㎡1DKが60万円弱となるという。